

週報

感染性胃腸炎(腸管病原菌)検出

センター受託検査分より

検出菌 ウイルス	平成29年												平成30年													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 ~1日	4月 ~8日	4月 ~15日	4月 ~22日	4月 ~29日	5月 ~6日	5月 ~13日	5月 ~20日	5月 ~27日	6月 ~3日	6月 ~10日
カンピロバクター	61	68	80	122	83	118	142	87	98	161	109	84	37	39	48	19	18	20	29	19	12	31	19	13	23 (24)	13
病原性大腸菌	107	105	89	113	64	135	206	161	102	112	73	110	66	51	44	21	21	19	15	22	7	30	21	20	20	14
腸管出血性大腸菌	0	0	0	0	0	1	1	1	0	2	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
サルモネラ	0	1	7	11	10	13	18	29	9	12	16	3	3	1	1	0	0	2	1	2	0	2	1	0	3	4
黄色ブドウ球菌 MSSA	6	11	12	15	9	21	32	17	24	24	9	12	14	11	7	6	6	2	7	3	4	2	0	4	4	
黄色ブドウ球菌 MRSA	16	19	13	17	15	23	27	16	22	19	15	16	12	11	13	2	3	1	4	2	1	5	3	3 (4)	3	
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	0	5	9	11	5	14	3	1	0	7	5	0	2	1	0	0	0	1	0	0	1	1
ロタウイルス	1	0	1	6	6	3	1	1	0	0	0	0	2	11	18	6	12	16	9	7	4	3	2	1	0	
アデノウイルス	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ノロウイルス	7	4	8	6	11	13	8	2	1	3	7	21	13	13	17	1	2	1	0	0	0	3	0	1	0	

* () は前回集計後に新たに検出された件数を含めて表示しています。

* その他の1件は、アエロモナスでした。

広島県感染症発生動向週報

平成30年第23週(6月4日~6月10日)

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	5	結核	5	1	1			3		
三類	4	腸管出血性大腸菌感染症	4				1			3
四類	7	日本紅斑熱	1					1		
		レジオネラ症	6		2		1	2		1
五類全数	15	侵襲性肺炎球菌感染症	1						1	
		梅毒	2	1				1		
		百日咳	12	1	4		3	3		1

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中町、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市 西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町 北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

広島県感染症情報センター 提供

定点・全数把握疾患週報【広島市】(第23週 6/4～6/10)

広島市感染症対策協議会/広島市感染症情報センター 提供

1. ヘルパンギーナ

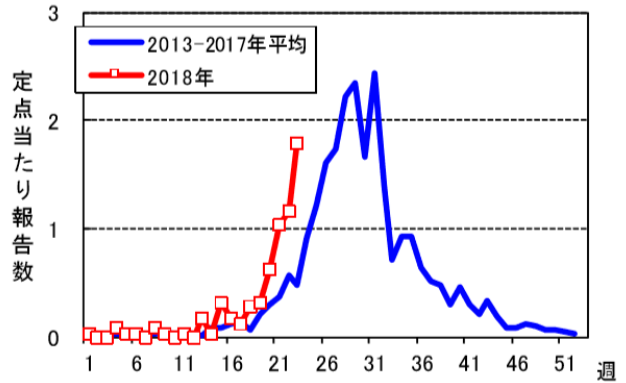
定点当たり1.79人と、前週の約1.5倍に増加しました。ヘルパンギーナは、発熱と口の中の粘膜に現れる水泡性の発しんを特徴とするウイルス性の感染症です。例年、乳幼児を中心に夏季に流行しますので、保育園や幼稚園などの集団生活の場では特に注意が必要です。

回復後も2～4週間程度は便中にウイルスが排泄されますので、手洗いの励行、オムツの適切な処理を心がけるなど、感染予防対策を徹底しましょう。

2. 日本紅斑熱

1件の報告があり、今年の累計は2件となりました。山や草むらに入るときは、長袖・長ズボンを着用するなど、皮膚の露出を少なくし、マダニの付着を防ぎましょう。

ヘルパンギーナの流行状況



■ 定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間平均(注)	発生記号
フィレン	インフルエンザ	1	0.03	0.06		小児科	流行性耳下腺炎	5	0.21	0.69	
小児科	咽頭結膜熱	18	0.75	0.97		眼科	RSウイルス感染症	8	0.33	0.10	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	80	3.33	3.12			急性出血性結膜炎	2	0.25	0.03	
	感染性胃腸炎	155	6.46	7.38		流行性角結膜炎	17	2.13	1.38		
	水痘	1	0.04	0.86		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	53	2.21	1.74			無菌性髄膜炎	-	-	0.06	
	伝染性紅斑	1	0.04	0.33			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.26	
	突発性発しん	6	0.25	0.50			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	0.03	
	ヘルパンギーナ	43	1.79	0.49			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	

急増減	↑	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↘	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	→	ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■ 全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	3	64	女性(40歳代)・1人、男性(70歳代)・1人、男性(90歳代)・1人
4	日本紅斑熱	1	2	女性(80歳代)
4	レジオネラ症	2	11	男性(50歳代)・1人、男性(70歳代)・1人
5	梅毒	1	45	女性(20歳代)
5	百日咳	3	17	女性(30歳代)・1人、女性(70歳代)・2人

■ 新たに判明した病原体検出状況

(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	性別	発症年月日	検査材料	検出病原体
ヘルパンギーナ	発熱(38.6) 口内炎	0	女	2018/05/07	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA2型
流行性角結膜炎	結膜炎 瞼結膜の発赤 流涙	56	女	2018/04/24	結膜擦過物	アデノウイルス85型
その他の呼吸器疾患	気管支炎 肺炎 鼻炎	0	男	2018/04/26	鼻汁	ライウイルス

* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載